

月刊 まち・コミ

2010年12月

2011年1月号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>

2011年の1.17の5時46分も、まち・コミスタッフ一同御蔵で迎えます。お立ち寄りくださいませ。



「伝える」

～まち・コミによる民間団体受入を通じて～

まち・コミでは、復興まちづくり15年の経験から多くのことを学びました。その経験と、そこから得たことを伝え、広く他の地区でも応援団や実践者を増やす一助になればと、中高生への震災体験学習だけでなく、成人の方々への各種団体の視察・研修受入に取り組んでいます。

また、受入事業は、我々自身も振り返り、また我々に新しい視点を入れていただく相互交流の機会でもあります。事例報告だけに終わらせず、双方にとって気づきの多い研修とし、訪問団体と、その後も、相互経験交流の継続を目指しています。

2010年度(12月現在)は、16団体(台湾大学、ワシントン大学、JICA研修海外含む)が、まち・コミに来てくださいました。具体的には、地元神戸市新規採用職員研修、各自治体の防災担当の職員や、大学で住宅・都市計画や防災を勉強・実践している研究室、ある町の民生委員、日本災害復興学会、農村やニュータウンの地域づくり住民組織、自治体の長の集まり、政府関係者の集まり等です。

また、今年度は、神戸市長田区御蔵地区だけでなく、台湾や兵庫県豊岡市出石町でも研修を受け入れました。

その内容とこれまでの経緯を振り返ります。



まち・コミ事務所内での研修受入の様子(101015 日本災害復興学会メンバー受入)

現在の受入当日の様子

訪問希望団体の方には、事前に受入シートを出していただきます。それに沿って、まち・コミ事務局にて打ち合わせ、どのようなプログラムにするかを検討します。

当日は、主に下記のような流れです。自己紹介の後、阪神・淡路大震災から16年、まち・コミ設立から15年、経緯を踏まえて、今では見られない当時の写真や映像を用いて、スライドにて復興まちづくりの様子を説明します。

その後、質疑応答の時間です。「どのような気持ちで住民や関係者は乗り越えたのですか。」「どのように運営を継続させていますか？」等様々です。

その後、まち歩きを行います。復興で町並みや生活は日々変化しています。今の様子を見ていただき、感じてもらうのが目的です。主には、御蔵地区を歩きますが、要望と滞在時間に寄って、もっと広く神戸市内を歩くこともあります。

その後、事務局に戻り、意見交換をしています。テーマは、“災害に如何に対応するか”その後の復興まちづくり”だけにとどまらず、住民参加や、住民の気づき等様々です。ここでは、訪問団体の現在の悩みから、「こんな時は、どうしたら良い？」と、議論になります。一方的にこちらの経験や意見を伝えるだけでなく、一つ一つ確認しながら、訪問団体の気づきを促せ、各地域へ戻ってから行動できるよう挑戦して

います。全体で、約2時間くらいです。

顧問の田中さんは、相手のテーマに沿ったお話をした後、必ず伝えます。「震災で学んだことは、“行動することの大切さ”です。震災復興まちづくりの中では、制度や規制に縛られて、不作為の行為も行われました。悪いのは必ずしも明確な悪の行為をするだけでなく、不作為の行為も悪だと思えます。よって、次の事を心に置いてきました。1つは、決断すること。2つは、先送りしないこと。3つは、(大事な事は)部下に任せないこと。行動して、念ずれば、必ず花開きます。震災の教訓が生きるために必要なのは、伝える側の熱意と、聞く側の熱意でしょう。」

年ごとの受入団体の様子

設立当初は、御蔵地区のボランティア村に事務所を構えていたSVA(シャンティ国際ボランティア会)は、東京に事務局があり、多くのボランティアを受け入れていました。海外でのボランティア活動やそのスタディツアーの経験もあり、夏休みに長期ボランティアを受け入れたり、東京でも活動報告をしたり、その実績や知名度の中で、SVAを通じて被災地学習に来る団体があり、その時にまち・コミも同席し、復興まちづくりの説明をしていました。そこには、今でもつきあいの続いている学生や、大学教授の方もいらっしゃいます。

その後、まち・コミも関東でのシンポジ

年度	総数	海外	団体種別										
			大学	教育機関	NPO・NGO	社団・財団	任意団体	地方自治体	住民組織	民間企業	議員団体	国	
1999	9	2	3		3	2	1						
2000	33	5	13		3	2	3		3		1		
2001	38	6	23		2	1	3		2		3	1	
2002	33	1	13		1	2	1	9	2		4		1
2003	47	9	13		2	7	8	7	2	4	1	2	1
2004	86	17	35		8	8	6	10	4	4	9	1	1
2005	29	9	9		5	3	2	2	3	1	2		2
2006	28	9	9		7	2	4		4		1		1
2007	20	5	3		2	5	1	1	3	2	3		
2008	26	10	5		1	7	6		2	1	4		
2009	10	5	3			3	2	1					1
2010	16	4	6			1			3	4	2		
総計	375	82	135		31	49	35	37	26	21	30	4	7

注) 海外は、総数に含まれる。国別では、47ヶ国の方が訪れて来ています。

注) 中高生への震災体験学習は、含まれない。

注) 2010年度は、2010年12月現在。

ウムや、御蔵学校開催、月刊まち・コミの発刊等、発信し、徐々に、御蔵を訪れる方が増えてきました。

2000年には、建設をコーディネートした共同再建住宅“みくら5”が完成し、その1階に“プラザ5”という地域コミュニティスペース(まち・コミも同居)ができてからは、常時交流できるスペースができたので、気軽に立ち寄られる外部の方も増えてきました。

2003年度には、御蔵北公園が出来、古民家建設中に入り、そのプロセスを聴こうと、住民のまちづくり団体の視察が増えました。防災まちづくり大賞総務大臣賞や、防災功労者内閣総理大臣賞を頂いたのがこの頃で、内閣府や全国組織の財団法人からの視察が始めてありました。

2004年度には、古民家移築集会所が完成し、その建設過程の物語をテーマに、視察の依頼がさらに増えました。建設プロセスに参加した学生が、有志で視察・見学に来ました。また、阪神・淡路大震災より10年の節目にあたり、1.17近辺には、海外の方も含め、多くの視察者が来られました。

2005年度には、受入シートを改めて作り直し、受入団体に事前提出してもらい、内容とプログラムの個別調整を始めました。また、受入テーマとして、災害時だけでなく、“地域コミュニティの再生”や、“地方自治体と市民社会組織の協働”等に関心を寄せるJICAの海外研修員(海外)の方の受入が始まりました。

2006年度には、2年前くらいから、新潟県中越地震、台風23号水害、ハリケーンカトリーナ、スマトラ沖地震等の様々な災害が起こりました。その方たちが、今後の復興まちづくりに向けてのヒントを得に来られています。

2007年度には、これから災害が起こるであろうと予測される地区の住民組織、支援士業連絡会、PTAと生徒、民間企業、大学研究組織の方が来られる傾向がありました。

2008年度には、中国四川省の教授や、新潟県山古志の被災地からの視察がありました。しかし半数以上は、災害時だけでなく日常時でも“地域コミュニティの再生をどうするか”に取り組もうとするNPO等の視察が増えました。

2009年度には、内閣官房国家戦略室「新しい公共」のメンバーも訪問され、視察・意見交換をさせていただきました。

2010年度には、今までは、関係者からの紹介が多かったのですが、今年度は、「ホームページで探しました。」「(先にまち・コミを訪問した)団体から聞きました。」と、直接応援団関係者でない繋がりでの選定されることもありました。

詳細は、「まち・コミ視察研修受入」で報告しています。

これから

報告している経験は、うまく行ったことだけでなく、うまく行かなかったことの方が多い。同席する学生からは、「失敗談は、話さない方が良いのでは。」という意見も頂いていますが、その模索に多くの学びが詰まっていると確信していますので、積極的に伝えていきたいと思っています。

今後は、活動事例報告でまちづくりの当事者の経験や思いを伝えることはもちろんのこと、これからは、まち・コミの外部者の視点を通じて、各地域でまちづくりの意義が深まる気づきを得られるような研修になるよう、さらに研修の場の持ち方を磨いて行きたいと思います。



2010年9月7日

ワシントン大学研修受入にて

JICA研修でお世話になって ～「コミュニティの再生」は共通の課題～ 長畑 誠

「阪神・淡路大震災が起きて街中がめっちゃめっちゃになった時、最初に助けてくれたのは誰でしょう?」。これは、私たちがJICA(国際協力機構)の研修で御蔵を訪れた時、世界各国から「地域づくり」について学びにきた人たちに、まちコミの宮定さんが必ず投げかける問いです。「実は、消防士さんでも警察官でもなく、震災の時に一番頼りになったのは近所の人たちです」。アジアやアフリカ、ラテンアメリカ等、いわゆる「発展途上国」から来日した研修員たちの多くは、この答えに深く共感してくれます。「そうですよねえ、やっぱりイザという時に頼れるのは同じ地域に暮らすご近所さんたちですよ」。これは、日本ほど行政の仕組みが整備されておらず、「お役所は頼りにならない」と日頃から感じている「途上国」の人たちにとっては、「その通り!」と思えることなのかもしれません。そして震災前の御蔵では人々が小さな路地を挟んでお互いに行き来し、お隣さんにとって近い距離で支えあいながら暮らしていた、というお話しをお聞きすると、「そうそう、自分達の町や村は、今でもそういう近所づきあいがいっぱい残っています」とフィリピンの街中で活動するノトさんも、中米グアテマラの山村で仕事をするハイロさんも、パキスタンの農村で働くアリさんも、異口同音に言います。

けれども、近代化、都市化の波はこれらの国にも巨大な力となって押し寄せてきています。農村に暮らしていても現金収入の道が限られています。少しでも「豊かな」暮らしを夢見て、たくさんの若者が村を出ていきました。農村では森が荒廃し、田畑も荒れ、若者が減ってきています。その一方、都会には大量の人々が流入し、日々の糧を求めて皆忙しく働き、お隣さん同士のつきあいも以前ほどではなくなってきました。治安が悪くなり、ゴミ問題や環境悪化も表面化しています。

「みんな自分の暮らしに精一杯で、助け合いとか支えあいとか、なかなか出来なくなっている」「お金がすべての世の中。そして時間すらもお金に換算してしまう私たち」。JICA研修の中で研修員たちは、自分たちの社会に起こりつつある変化について考え始めます。そして御蔵を訪れて、まちコミの皆さんが地域の方々とともに、「コミュニティの再生」に取り組まれている姿に触れることとなります。震災を通じて実感した「ご近所同士の絆の大切さ」。そして様々な活動を通じて御蔵の「賑わい」と「絆」を取り戻そうと模索してきた「まちコミ」の歴史。研修員たちの多くはそれぞれの国の地域で活動するNPOのリーダーや地方自治体の職員です。そこに暮らす人々と共に歩みながら、地域の再生と発展に尽くそうとする彼、彼女たちは、まちコミの試行錯誤から、そして御蔵の方々の元気な姿から、自分たちの活動にとって大変重要な「何か」を学びとってくれています。それが何なのかは、彼、彼女たちの帰国後の活躍に期待したいと思っています。



○プロフィール○

ながはたまこと 東京生まれ、神奈川県横浜市在住。一般社団法人あいあいネット専務理事。インドネシア等で住民主体の地域づくりのファシリテーションに取り組む他、国境を越えた学びあいを促進する活動に取り組んでいる。JICAの研修員受入事業ではファシリテーターとして多くのコースに関わり、2004年から毎年のように御蔵にお邪魔している。明治大学大学院客員教授。

まち・コミ news お知らせとご報告

1月9日 こうべi(あい)ウォーク2011 開催

9時30分から10時の間にJR鷹取駅南東にある大国公園を出発し、まち・コミがゴール。スタート地点での募金(千円)は、NPO法人しみん基金・KOB Eを通じて市民活動へ助成されます。チラシはこちら <http://homepage2.nifty.com/machiken/juku/iwalk/iwalk11/iwalk11.pdf>

大地のつづやきをまとめました

「月刊まち・コミ」で人気の連載、大地のつづやきを編集してまとめました。インターネットからダウンロード(<http://machicomi.blog42.fc2.com/blog-entry-1340.html>)できるほか、CDでデータをお渡しできますので、ご希望の方はまち・コミへご連絡ください。

1月8日午前1時から NHK ラジオ第1「ラジオ深夜便」に登場します

<人ありて、街は生き>のコーナーで、タイトルは「古民家、海を渡る」。まち・コミ顧問の田中保三が登場します。 <http://www.nhk.or.jp/shinyabin/pro/2a5.html>

日本興亜おもいやり倶楽部様からご寄付をいただきました

日本興亜損保の役職員有志が会員の「日本興亜おもいやり倶楽部」。会員が毎月の給与から拠出した基金をもとに団体等に寄付をする際、会社も同額を拠出し、両者一体となった社会貢献活動を行っています。まち・コミュニケーションが今年度の支援先に選ばれました。ありがとうございます。

大地のつづやき

台湾での邂逅 (I)

九月下旬に陳舜臣さんの奥様から電話をいただいた。「今主人はリハビリで沖繩にいます。十一月に台湾に寄って、日本に帰る予定です。その時には是非移築された古民家に立ち寄り文庫も見たいと思います」と。「分かりました。是非台湾でお会いしましょう。詳細が決まり次第お教えください」と返事をしながら一瞬頭をかすめた。そうだ！水上路子さん、窪島誠一郎さんにもこのことを伝えよう。出来ることなら台湾で陳舜臣さんとご家族に会っていただければ、こんな素晴らしいことはないだろう。古民家には水上勉文庫と陳舜臣文庫が並んでいる。しかも同世代の作家であるし、文士劇にもお二人は一緒に出ていたと陳夫人から聞いていた。その旬日後に陳夫人から再び電話を受けた。「十一月五日、十二時三十分中華航空にて台北に着きます。ホテルはリーゼントを予約しました。帰国は十一月八日です。空港からホテルに一旦入ると出づらくなるので、その足で直接淡水に行きましょう」と。「分かりました。空港へは台湾のパートナーの邱明民さんと宮定君、私の三人でお迎えに行き、そのまま淡水へ先導致します。ところで一つお願いがあります。水上路子さん、窪島誠一郎さんにこのことを伝え、できれば台湾滞在中にご面談願えないでしょうか。これもご縁なので」と問えば「私の方も是非お会いしたいと思っていました。窪島さんにも」と言っていた。早速水上路子さん、窪島誠一郎さんに連絡をとり、お二人は十一月七日に訪台したいと返事をいただいた。まち・コミ代表の宮定君と私は十一月四日に台北入りし、十一月五日は陳さんご一家に淡水の古民家を案内し、十一月七日は空港に水上路子さん、窪島誠一郎さんを迎え、リーゼントホテルに直行し陳さんと面談、十一月八日は古民家で窪島誠一郎さんに「無言館ものがたり」を語っていただく。そして宮定君と私は十一月九日に帰国すると予定を立てた。邱さんには我々の帰国後の水上路子さん、窪島誠一郎さんの台北案内を頼んで…。

株式会社兵庫商会 田中保三

まち・コミ活動報告

11/1 ~ 12/27

- 11/3 加古川市立両荘中学校 語り部ヒアリング打合せ
- 11/4 ~ 9 訪台
- 11/9 加古川市立両荘中学校 語り部ヒアリング
- 11/10・11 東京学芸大学附属高校 震災ヒアリング
- 11/13 安治自治会(野洲市) 出石にて研修
- 11/14 神戸市内勤務の看護師の 防災ウォークでお話し
- 11/15 泉佐野市役所秘書課と 研修打合せ
- 11/16 兵庫県立有馬高等学校 「わたしのいのち、私の生き方」講演(田中)
- 11/20 震災体験学習下見応対
- 11/20 たまねぎ苗移植 (出石市民農園)
- 11/26 陳立人さん (陳舜臣さんご子息) 面会
- 11/27 泉佐野市交友会研修受入
- 11/27 W E B 会議
- 12/4 名古屋講演(田中)
- 12/7 埼玉県立朝霞高校 震災体験学習実施
- 12/8 「実践的参加型 コミュニティ開発」研修受入 (JICA・関西NGO協議会・参加型開発研究所)
- 12/11 宮崎生目台地区研修受入
- 12/11 岸和田市立光明地区公民館にて講演「阪神・淡路大震災から学ぶ」(田中)
- 12/16 震災学習 実施団体交流会出席
- 12/17 ~ 20 台湾
- 12/27 震災体験学習下見

ご支援、ありがとうございます。

10/11 ~ 12/24

賛助会員(新規・継続)

増永理彦(兵庫県) 清水光久(兵庫県) 服部隆志(大阪府) 浜崎利澄(兵庫県) 山本俊貞(兵庫県)
 高宮城幸雄(兵庫県) 森倉幹氏(三重県) 杉本政子(兵庫県) 田中貢(大阪府) 王柏群(兵庫県)
 松原永季(兵庫県) 石川公弘(神奈川県) 佐藤滋(東京都) 関根美子(東京都) 辻野芳郎(兵庫県)
 大谷良心(奈良県) 長畑誠(東京都) 山田理恵(神奈川県)

寄付

協力 社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県) 【順不同・敬称略】

新規賛助会員募集&更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいております。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は1年更新とさせていただきます。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

会員特典

本誌「月刊まち・コミ」の送付。

まち・コミュニケーションに関する、Eメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

編集後記 修学旅行生への震災体験学習の、今年度ご予約分は無事終了しました。震災をリアルタイムで知らない子どもたちが増えてきて、より一層伝えることの大切さを感じています。(戸)

年会費

個人・法人 年間5000円
 学生 年間3000円

郵便振替口座番号

00950-3-42788

口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

2011年1月1日発行
 編集/発行 まち・コミュニケーション
 定価 1000円

御蔵事務所 〒653-0014
 神戸市長田区御蔵通5-5
 TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東京事務所 〒162-0052
 東京都新宿区戸山1-24-1
 早稲田大学文学部浦野研究室内

神奈川事務所 〒214-8580
 神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1
 専修大学文学部大矢根研究室内

e-mail m-comi@bj.wakwak.com
 URL <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>